

- 問1 関東地方に位置し、横浜市などの大都市を擁する地域における産業構造の特色を説明した資料があります。その資料において、外国人観光客数が年間120万人を超え、就業者割合が第一次産業で約2%、第二次産業で約23%、第三次産業で約75%を示している地域の状況として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)

1. 都市化が進んでおり、商業やサービス業を中心とした第三次産業の割合が極めて高い一方で、工業地帯を抱えるため第二次産業も一定の割合を維持している。

2. 内陸部の工業団地開発により第二次産業の割合が全国で最も高く、製造業に従事する外国人労働者が多いため、観光客数も増加傾向にある。

3. 広大な平野を利用した近郊農業が盛んであり、就業者の大半が第一次産業に従事しているが、観光地としての側面も併せ持っている。

4. 東京都に隣接しているものの、豊かな自然景観を保護するために開発が制限されており、第三次産業よりも第一次産業の成長が著しい。
- 問2 東京都港区の統計において、1980年代半ばと現在を比較すると、かつては減少傾向にあった人口が、近年では40歳代前後の層を中心に顕著な増加に転じています。このような人口動態の変化をもたらした、都市中心部での取り組みとして最も適切なものはどれか選びなさい。 (2024年 岐阜県公立入試 類似)

1. 郊外における大規模なニュータウンの建設

2. 都心部から地方への企業本社の移転促進

3. 工場の跡地などを活用した大規模な再開発

4. 過疎地域からの集団移住を促す制度の導入
- 問3 「年間の日照時間」と「住宅用太陽光発電機器の設置数」の関係を示したデータにおいて、日照時間が2000時間を超えるほど長い地域は、一般的に設置数も多くなります。しかし、関東地方に位置するある県は、日照時間が長いにもかかわらず設置数が5万件を下回っており、静岡県や愛知県などの他の太平洋側の県とは異なる傾向を示します。横浜市の県庁所在地に持つこの県はどこですか。 (2023年 秋田県公立入試 類似)

1. 千葉県

2. 東京都

3. 埼玉県

4. 神奈川県
- 問4 2000年代以降の工場立地件数に関する統計において、群馬県、栃木県、茨城県からなる北関東地域は、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県からなる南関東地域を上回る件数を記録したことがあります。北関東でこのように工場立地が進んだ背景として、最も適切な説明を次の中から選びなさい。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)

1. 大規模な港湾施設が整備され、内陸部であっても海外からの原材料の輸入が容易になったため。

2. 南関東に比べて地価が安く、高速道路網の整備によって広い敷地を確保しやすくなったため。

3. 南関東よりも労働賃金が高く、高度な技術を持つ人材が北関東に集中しやすいため。

4. 内陸県である群馬県は、地震や台風の影響を全く受けないため、生産拠点が集中したため。
- 問5 ある県の産業統計において、米の産出額が約156億円、果実の産出額が約83億円であるのに対し、野菜の産出額が約912億円と非常に高く、さらに製造品出荷額等が約9兆522億円に達している県はどこですか。 (2024年 高知県公立入試 類似)

1. 静岡県

2. 石川県

3. 青森県

4. 茨城県
- 問6 関東地方の農村風景について述べた次の文のうち、地形と土壌の性質を正しく関連付けて説明しているものを選びなさい。 (2021年 大阪府公立入試 類似)

1. 台地は火山灰が堆積した関東ローム層に覆われ水はけが良いため、野菜などを生産する畑として利用されることが多い。

2. 関東平野の台地で見られる赤土は、かつての海底の泥が堆積したものであり、ミネラルを豊富に含むため水田に適している。

3. 川沿いの低地は水はけが非常に良いため、水不足に強い作物を育てる畑として利用されるのが一般的である。

4. 台地の土壌は保水力が極めて高いため、大規模な灌漑施設を必要とせずに稲作が行われる水田地帯となっている。
- 問7 茨城県、栃木県、群馬県の3県にまたがり、内陸部における高速道路網の整備を背景に、1960年代以降、日本の製造品出荷額等において占める割合を大きく伸ばしてきた工業地域はどこか。 (2018年 高知県公立入試 類似)

1. 北九州工業地域

2. 京浜工業地帯

3. 北関東工業地域

4. 阪神工業地帯
- 問8 関東地方の東部に位置し、太平洋に面して九十九里浜が広がっている千葉県の半島の名称を答えよ。 (2018年 北海道公立入試 類似)

1. 紀伊半島

2. 房総半島

3. 三浦半島

4. 能登半島
- 問9 栃木県の冬の気候について、北西の山地側から吹き下ろす乾燥した季節風の影響により、晴天の日が多く、日照時間が長くなるという特徴があります。この現象が起こる背景として、地形と風の影響を説明した記述のうち最も適切なものはどれですか。 (2022年 岡山県公立入試 類似)

1. 冬の冷たい季節風が関東平野で上昇気流となり、山地で雪を降らせた後に、再び湿気を含んだ風として平野部へ戻るため。

2. 太平洋側から吹き込む暖かく湿った季節風が、渡良瀬川や鬼怒川などの河川沿いに北上し、山地で乾燥した空気に変化するため。

3. 南東の海側から吹く季節風が、栃木県北西部の山地によって遮られることで、平野部に湿った空気が届かなくなるため。

4. 日本海側から吹く湿った季節風が、本州中央部の山地を越える際に水分を失い、乾いた風となって栃木県側に吹き下ろすため。
- 問10 関東地方の都県を比較した統計において、ある都県では、夜間人口（常住人口）に対する昼間人口の割合を示す「昼夜間人口比率」が117.8%という極めて高い数値を示しています。また、15歳から64歳の「生産年齢人口」の割合も周辺の県より高いという特徴があります。このような人口特性を持つ都道府県はどこですか。 (2021年 徳島県公立入試 類似)

1. 茨城県

2. 東京都

3. 埼玉県

4. 千葉県
- 問11 茨城県の南東部で生産されるピーマンは、明け方に収穫されたものがその日の午後にトラックで約3時間かけて東京へと運ばれます。このように、大消費地である都市の近くで行われ、輸送距離が短い利点を活かして鮮度の高い農作物を供給する農業の形態を何と呼びますか。 (2023年 東京都公立入試 類似)

1. 高原野菜の栽培

2. 土地生産性農業

3. 近郊農業

4. 遠郊農業
- 問12 東京23区の人口動態について、神奈川県、埼玉県、千葉県などの周辺県から多くの人々が通勤・通学のために移動する状況を踏まえ、昼間人口と夜間人口の関係を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2015年 大分県公立入試 類似)

1. 練馬区や江戸川区といった住宅地が多い周辺の区では、都心部へ向かう人々よりも都心部から来る人々の方が多いため、昼間人口が夜間人口を上回る。

2. オフィスや官公庁が集中する千代田区や中央区では、周辺地域から流入する人々によって昼間人口が夜間人口を大きく上回る。

3. 近年の都心部への住み替えが進んだ結果、千代田区などの都心部では居住者数が急増し、夜間人口が昼間人口を上回る逆転現象が起きている。

4. 東京23区は日本の中心地であるため、すべての区において周辺県から流入する人々が居住者を上回り、昼間人口の方が多くなっている。